

2024年4月24日
日本ガス協会

日本ガス協会 内田会長 会見発言要旨

1. はじめに

あらためて就任にあたっての私の思いを申し上げる。

都市ガス業界を取り巻く環境は、この数年で大きく変化した。世界的なカーボンニュートラルに向けた流れの加速、ロシアによるウクライナ侵攻以降の世界的な LNG 需給の逼迫とそれに伴うエネルギー価格の高騰、そして需要側では省エネ意識の高まり、また各地で頻発する地震あるいは風水害を踏まえた災害対策強化への要請などである。

なかでもカーボンニュートラルに向けた潮流は、将来の都市ガス事業の在り方を大きく変えるものであり、まさに今、都市ガス業界はガス事業の創成を第一期とすると、LNG の導入が第二期、そして今は「第3の創業」とも言える大変革へ挑戦している最中である。

エネルギーの安定供給とカーボンニュートラル社会実現という課題の実現に向け、ガス業界全体が一枚岩となって取り組み、特に e-メタンの社会実装を着実に実行していくとともに、地方ガス事業者へのサポートもしっかりと強化していく。

都市ガス業界がお客さまや社会から選ばれ続けるために何をなすべきなのか、これを常に念頭において取り組んでいきたい。

2. 2024 年度の日本ガス協会事業計画

2024 年度は、次期エネルギー基本計画の策定や国内外における e-メタン製造に関する事業性の詳細検討が進むなど、e-メタンの社会実装に道筋をつける重要な 1 年となる。そのため、国の政策・制度、社会における e-メタンの位置づけの確立を目指していく。また世界情勢も変化し、LNG を

はじめとするエネルギー供給への懸念がある中において、国・社会からの安定供給の要請に確実に応え、さらには人口減少にさらされている地域の都市ガス事業者の事業活動を支えていく。

具体的な取り組みとして、1点目は「カーボンニュートラルチャレンジ2050 アクションプラン」の実現に向けた取り組みの強化である。エネルギー基本計画をはじめとする各政策における e-メタンの位置付けを確保するとともに、GX 経済移行債・投資回収スキーム等、e-メタンの社会実装に向けた支援・制度確立への対応を強化していく。同時に、トランジション期における燃料転換の推進、レジリエンス強化などにも資するガスシステムの導入促進に向けた取り組みを強化していく。エネルギー政策は「S+3E」が基本であり、カーボンニュートラルを目指しながら、トランジション期の低炭素化や安定供給、経済性の担保などが重要になる。政府においては、次期エネルギー基本計画に、トランジション期における天然ガスの重要性も明確に示していただきたい。

2点目は都市ガスの安全・安定供給に向けた不断の取り組みである。

有事における LNG の供給途絶に向けた需給両面からの備えの徹底や、安全・安定供給の確保、スマート保安の導入促進への取り組み、災害対応能力の強化などを進めていく。

3点目は地域脱炭素、地域活性化への取り組み支援の強化である。

地域でのガスシステムの普及拡大や、地域で取り組みが可能なカーボンニュートラルの支援、さらには地域活性化に向けた取り組みの好事例の水平展開、地域連携策への支援等を進めていく。

この3つの柱に加え、2024年度は大阪・関西万博のパビリオン出展に向け、気運醸成や着実な建築工事の実施、運営・展示演出の詳細検討など、万全の準備を進めていく。

3. e-メタンに関する動向

経済産業省と米国エネルギー省において3月に実施された日米クリーンエネルギー・エネルギー・セキュリティ・イニシアティブプレナリー会合での合意を経て、4月10日の岸田首相の米国公式訪問時の成果文書では、日米企業間で進行中のCCUS、カーボン・リサイクル・プロジェクトの進展を歓迎すること、e-メタンについてはCO₂の二重計上を回避するため、日本企業は米国企業と基本合意書を締結していることが明記された。

今後、民間合意を踏まえ、国家間のカウントルールの整理につながることを期待している。

4. 大阪・関西万博のガスパビリオン

大阪・関西万博のガスパビリオンについては、約1年後の開幕に向け、企画や建設工事などガスパビリオン「おばけワンダーランド」の準備は概ね順調に進んでおり、引き続き安全に工事を進めていく。

先日、新たなおばけキャラクターも公開し、全国の皆さまからの投票で名前を付ける予定としており、来場した皆さまに親しんでいただけるパビリオンを目指していく。

以上